

9. 採卵鶏農場におけるワクモ対策への段ボール法利用に向けた一考察

徳島県徳島家畜保健衛生所 ○中田^{なかた} 翔^{しょう} 丸谷^{まるたに} 永一^{えいち} 阿部^{あべ} 敏晃^{としあき}

連続入雛の飼養方式をとり、薬剤散布のワクモ駆除効果が乏しい管内採卵鶏農場において、福田(2013)らの報告による段ボール片を利用した捕集駆除(段ボール法)の活用を検討。効率的な段ボール片の形状(幅×長さ:10cm×50cm、厚さ:5mm)や誘引物質(レモンガラス精油)の塗布など既報の成果を参考に、例年ワクモ駆除を行う4月~8月の間、1段ケージで約4,000羽飼養する開放鶏舎で試験実施。段ボール法実施の季節的好機や段ボール片の交換頻度について効果的条件を考察。ワクモ捕集量は平均気温が連日15℃を超えると急激に増加したが、25℃以上では低下。本地域では5月~7月にワクモ増殖が旺盛、集中した対策実施により効率性が増す。段ボール片設置期間を1日、4日及び7日で捕集量を比較したところ、ワクモ増殖が最盛を迎える6月初めまでは7日、その後の猛暑期は4日間隔で捕集効率が高く、時期に応じて交換頻度を変えると能率的。当該農場で薬効を確認した有機リン製剤を散布しても捕集量の明らかな低下は認めず、薬剤だけの対策は困難。コスト比較では段ボール法(約1.1円/羽・回)は薬剤使用(約7.3円/羽・回)に比べて安価でありコスト面から有用。ワクモの完全駆除は困難だが、季節変化に応じて好機に段ボール法を活用すると、薬剤使用に比較して低コストかつ簡便で身体的負担少なく、ワクモ生息程度の低減が期待できる。